

### 生で枝付きで売る



新鮮な枝付きの鷹の爪を直売所へ出荷。10月からひと房ずつ枝ごと切って収穫し、葉を除去してからラップで包み、一つ200円で「普賢寺ふれあいの駅」で販売（京都府京田辺市・松宮智さん・博さん10ページ）

### 生の果実を袋詰めで売る



実の長さや向きを揃えて見栄えをよくすることで売上もアップ（愛知県・加藤明さん提供、黒澤義教撮影）

### 七味を手づくり



岡山県鏡野町のNPO法人てっちりこが運営する直売所「みずの郷奥津湖」で売られている七味の材料。皮（陳皮：熟したみかんの皮）、山椒、青のり（海藻）、麻の実、ごま、芥子の実など。全部で15～20種類の中から、スプーン1杯単位で10杯分をブレンド。これで1瓶となる（七味については112ページ参照）

直売所で  
トウガラシが  
売れる



（倉持正実撮影）

マイ七味ブレンドレシピ例

使用方法		姫とうがらし	ユズ	木の芽(サンショウ)	赤シソ	梅粉	青のり	シイタケ	ゴマ	塩
汁物用	うどん・そば	(大辛)	7	1	1		1			
		(中辛)	5	2		1		1	1	
		(普通)	4	2		2		1		1
	豚汁	6	1			1		1	1	
	水炊きボン酢	5	3		1		1			
ふりかけ用	フライ・唐揚げ・天ぷら	4		2	1	1	1			1
	焼きそば・焼きうどん	4		2	1	1	2			
	野菜炒め	5	2		1		1		1	

売り場に置いてあったレシピを一部編集。用途に応じたブレンドの目安がわかる。この他、材料ごとに成分や機能性をまとめた表もある

### 一斉収穫よりも順次収穫（鷹の爪）



トウガラシは徐々に着色していくので、成熟した果実を一つずつ収穫すると品質のよい赤い果実が揃う  
(編集部撮影、以下Hも)

### 一斉収穫と順次収穫



一斉収穫すると日焼け果や着色が進まない果実も混ざってしまう (H)



A級品（乾燥トウガラシ）。2週間おきに成熟した果実を一つずつ順次収穫すれば、このとおり品質が揃う (H)

### トウガラシの栽培



高品質  
多収  
のコツ

トウガラシは枝が折れやすい。通常、分枝するタイプはフラワーネットを地面から40~50cmほどの高さに張って倒伏を防ぐ



地面から40cmぐらいの高さをヒモ（矢印）で挟むと倒伏と枝折れを防げる



### ③分枝節成りタイプ …伏見辛、ほんたか本鷹など

本鷹は、分枝することによって腋部に一つずつ着果する。新梢の伸長は果実肥大中も停止することなく、次の分枝には新たに開花している状態になるため、草丈は1mほどになる。果実はふっくらして長い



### ④立性タイプ…F1品種や韓国トウガラシなど

韓国のトウガラシなどを交配親に用いた一代雑種などは、分枝節成りタイプのように定植の1カ月後に10~12節ほどに生長した頃、新梢先端が2本に分枝して腋部に第1花がつく。大部分の品種では果実は下向きに着果する。鷹の爪などに比較すると伸長ははやく、夏までに草丈1mほどになる



## 仕立て方と 収穫法は 大きく4タイプ

結果習性の異なる4タイプに分けて仕立て方と収穫法を変えることで高品質果がたくさんとれる

### ①芯止まり房成り タイプ…やつぶさ八房など

分枝しない八房は、苗定植の1カ月後に草丈30cmほどで芯止まり状態になり、果房の収穫が終わるまで新梢は伸長しない。房状に着果した10~20個の果実を10月に一斉収穫する方法が一般的



### ②分枝房成りタイプ たかのつめ…鷹の爪など

鷹の爪は、苗定植の1カ月後に先端が2本に分枝し、その腋部に第1花がつく。次の分枝に10個前後の花が房状に着生し、1カ月ほどは生長が止まったようになる。開花から3~4週間後に果実の収穫を始める頃に分枝した新梢がゆっくり伸び始めて、まるで果房の中から新梢が出てきたかのように見えるが、この後も同様のことを繰り返して、12月中旬までに草丈が70cm程度に達する

①と②の中間の草姿を示す「芯立ち房成りタイプ」(熊鷹など)もある(63ページ)



さらに、図の左上には生長点付近に花穂が上向きに着生する現在の八房と同様の姿が描かれており、これら鷹の爪、本鷹、八房が当時の主流をなす系統で、他にも多数の系統があったと察するところだす。

### 日本には複数の系統が伝来していた

「成形図説」の中で、1種類の野菜でこれほど多くの異なる形態が描かれているのはトウガラシだけで、複数の遺伝的形質を持った個体が日本に伝来していたことがうかがわれます。

そして、これら系統ごとの自家受粉による固定種や系統間で交配して育成したものの中から、色の鮮やかさや香りのよさを指標にして優良な形質を持つ系統を見つけて、全国各地で地方特有の品種として保存され、現在の日本に伝わる品種群が誕生したと思われます。

### 伝わるトウガラシ時代の呼び名

なお、その呼び名については「成形図説」の文中に、九州地方では「胡椒」、東北地方では「南蕃」と称することが記されています。

現在でも中部地方の一部と中国地方および九州地方では「こしょう」、その他の地方では「なんばん」と称されることが多く、岐阜県飛騨美濃の伝統野菜「あじめこしょう」、青森県弘前市の在来系



図4-3 全国各地に根付いたトウガラシの例

統「清水森ナンバ」や新潟県長岡市の伝統野菜「かぐらなんばん」など当時の名称が伝わっています。「かぐら」という名称が使われることも多いですが、「シトウ（獅子とうがらし）」のように果実の先端が少しくぼんで獅子舞の御神楽を思わせることが「かぐら」と呼ぶ由来になったそうです。

### 現在も辛味種が主流で、韓国の系統が加わる

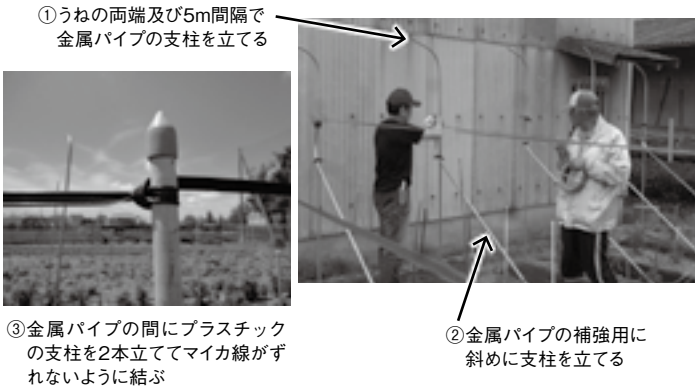
現代でも、日本の辛味種の栽培系統の主流は、「鷹の爪」

また、支柱にマイカ線を2〜3段に張って、梱包用PPヒモで縦方向に1株当たり3本ほど誘引しても同様の効果があります。トウガラシの枝は木質化するので枝先が果実の重みなどで下を向くと伸びなくなるだけでなく、作業が遅れてから誘引しても再び正常に伸びなくなります。ですから、枝の先端は常に上向きになるよう誘引します。こうすれば、キュウリのような平面的な草姿にすることができ、フラワーネットを地面と水平に張るよりも株全体の受光体制がよくなり、収穫や追肥などの作業もラクになります。

**枝折れ対策にもなる**

一方、分岐部より下の節から発生するわき芽を数本伸ばしたため株張りが旺盛な場合は、丈夫なヒモ2本で分岐部直下を挟み込むことで、倒伏と枝折れを防止できます。収穫初期に台風で大きな被害が予

**倒伏防止用の支柱を立てる**



①うねの両端及び5m間隔で金属パイプの支柱を立てる

③金属パイプの間にプラスチックの支柱を2本立ててマイカ線がずれないように結ぶ

②金属パイプの補強用に斜めに支柱を立てる

図5-8 マイカ線のずれにくくくり方

支柱を立てて平面的な草姿にして作業を省力化  
草丈が80cmぐらいの高さに生長する系統ではフラワーネットを2段に張る労力を削減するために、うねの中央に長さ1m以上の直管パイプか木製の支柱を2mおきぐらいに立てて、15cm目合い6目のフラワーネットを縦にして張ることで代替できます。主枝や分岐の一部を結束バンドなどでフラワーネットに留めるだけで枝折れを防ぐ効果があります。

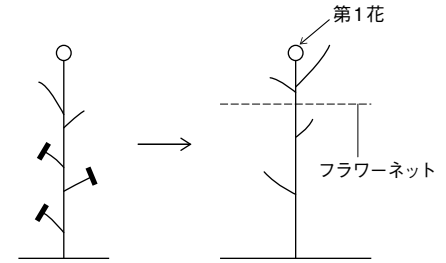


図5-6 下半分のわき芽を取ってフラワーネットを張る

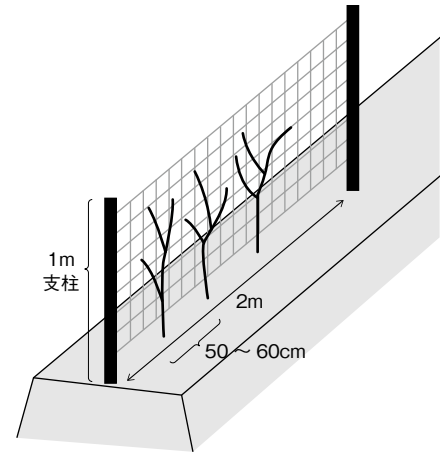


図5-7 フラワーネットを縦に張る方法